



システム塾への招待：開催案内

～システム思考獲得のための交流会型ワークショップ～

2019年10月吉日

(一社) システムイノベーションセンター
人財育成協議会

【I】システム塾の目的

今年1月に発足した一般社団法人「システムイノベーションセンター」(SIC)は、日本におけるシステム化を推進するために「システム(化)人財」の育成を基本方針の一つに掲げています。「システム人財」は、システム思考を身につけ、システム構築に必要な高度の科学技術に習熟し、卓越したシステムを構築・運用する能力を持ち、さらに環境に応じてシステムを進化させていくための広い展望をもった人財です。「システム人財」はこれまで不足が叫ばれ続けてきた「IT人財」に代わる新しいタイプの人財で、ITを高い視点から使いこなすための人財です。現在進行しつつあるデジタルトランスフォーメーションのもとで「デジタル人財」の必要性が叫ばれ始めていますが、デジタル化はシステム化によって駆動されているというSICの認識を投影したデジタル人財が、システム人財です。

SICの人財育成の全体プログラムは大きなスコープを持っていますが(現在「SICシステム人財育成大綱」を策定中)、システム塾はそのなかで全体プログラムへの入門を兼ねシステム思考の獲得を目指すワークショップ形式の講習会です。その目標は次の四つです。

- ① システム思考を体験する
- ② 現代社会におけるシステムの意味を理解する
- ③ システム科学技術の外観を俯瞰する。
- ④ システムを共通の関心事とする企業業種を超えた人的ネットワークを獲得する。

システムは身の回りに沢山あり、私たちの生活はシステムで支えられていながら、システムとは何かを改めて問いかけられると答えに窮します。この塾では、システム思考を身につけることを通して逆に現代におけるシステムの意義を認識して頂きます。システム思考は他人から教えられて身につくものではなく、自ら考え他人と意見を交わし、試行錯誤を繰り返していくうちに身につくものです。本ワークショップではグループ別の議論を通してシステム思考を身につける方法を自ら学んで頂きます。それによって現代社会におけるシステムの重要性と存在理由を認識し、現代のシステム化社会を支える科学技術の現状を俯瞰する目を養います。わずか一日半の日程ですが、ここで培われたシステム化への共通認識と共感を通して、企業、業種、専門を超えた人的なネットワークを作って頂きます。



【Ⅱ】塾の開催要項

(1) 日時・会場・受講料

- ① 日時：11月5日（火）～6日（水） 計1日半の短期集中型の集合研修

1日目は 13:00～17:00迄の半日

2日目は 9:00～17:00迄の終日。

- ② 会場：政策研究大学院大学の会議室（GRIPS 会議室 1A, 1B, 1C）を利用。

<http://www.grips.ac.jp/jp/about/facilities/>

- ③ 定員 30名（先着順）

- ④ 対象者 SIC 委員及び会員企業の DX 推進担当者を主な対象とする

- ⑤ 受講料 今年度は試行のため無料とします

ただし、懇親会の費用は当日徴収します。

次回以降は有料となります。たとえば、受講料（案）は以下のとおり。

- ・ SIC 会員 : ¥20,000 円（税別）
- ・ 一般（非会員） : ¥50,000 円（税別）

※受講料には、塾テキスト、昼食、懇親会費等が含まれます。

- ⑥ 開催前の事前準備

受講者は、SIC が用意する A) 事前アンケート、事前配布する資料に対する B) 課題短文を事前に提出して頂きます。

A) 事前アンケート 受講者一人ひとりが持つ思考の特徴をアセスメントするために実施します。本塾では Gallup 社が開発した「ストレングスファインダー法」の Web アンケートツールを使用します。

回答日限 10月28日（月）

B) 課題レポート SIC が発行しているニュースレター（Vol. 1.1.1、Vol. 1.1.2「システムイノベーションとは何か？（1、2）」）を課題図書とし、その内容に関して受講者の感想や意見を、500 文字程度のレポートとしてまとめてもらいます。あらかじめ受講者がシステムイノベーションに関してどのようなイメージや意見を持っているかを、事前に把握し、各セッションの進め方の参考資料とします。

提出日限 10月31日（木）

研修会会場



懇親会会場





【Ⅲ】プログラム

(1) プログラム概要

表 1：システム塾 1 日目のセッション構成と時間割

セッション		概要	時間割
1	開催挨拶	齋藤センター長	13:00-13:05
2	オリエンテーション (1)	本講座の目的/進め方、きょうの目標	13:05-13:15
3	SIC からの情報提供 1	システムイノベーションとは？	13:15-13:45
4	事前アンケートのレビュー	受講者の基本資質と受講動機の共有	13:45-14:05
5	グループワーク 1	アイスブレイクとして、自己紹介やチーム名の定義	14:15-14:30
6	SIC からの情報提供 2	システムで解決すべき 6 つのテーマの提供と概要説明	14:45-15:15
7	グループワーク 2	グループ毎にテーマを 1 つ選定し、システム思考の青写真を描くための方針決めディスカッション	15:15-16:15
8	グループ別発表会 (前編)	初日のグループ成果の発表	16:15-16:45
9	まとめ	きょう 1 日の振り返り、あしたの進め方の予告、Q&A	16:45-17:00
10	交流会 (懇親会)	受講者同士や講師陣とのネットワーキング機会、2 日目への動機づけ	17:30-19:30

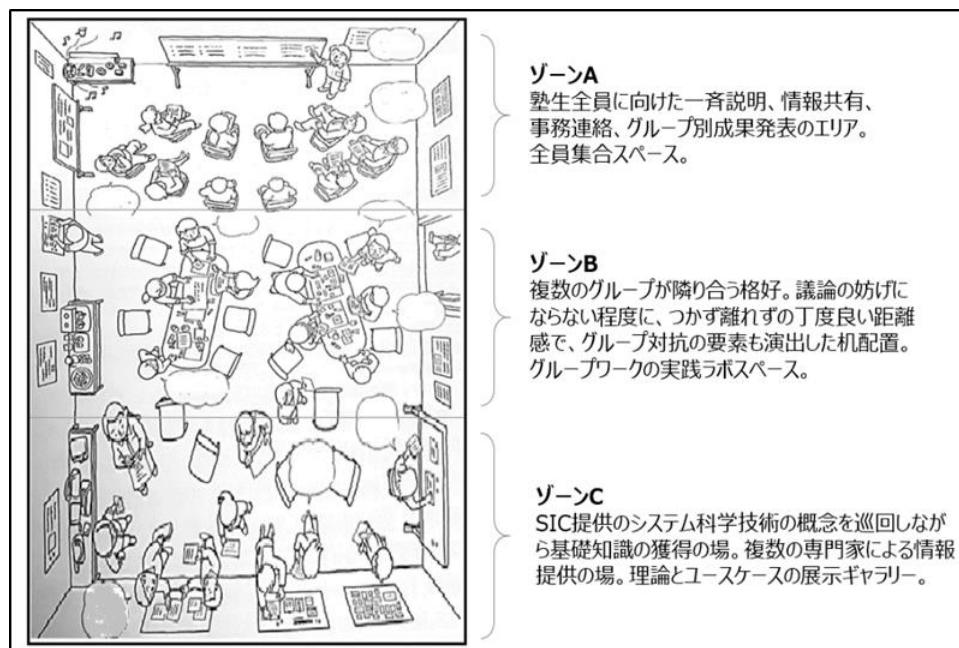
表 2：システム塾 2 日目のセッション構成と時間割

セッション		概要	時間割
11	オリエンテーション (2)	前日の振り返り、きょうの目標	9:00-9:30
12	SIC からの情報提供 3	システム科学技術の概念体験会。ギャラリー会場でプレゼンを聴講。テクノロジーのデモやハンズオンの機会と My システム思考の動機付け	9:30-11:00
13	グループワーク 3	フィールドワーク～現場に GO！～ 概念体感したシステム科学技術と自分たちが仮定したシステムイノベーションとのマッチングと新価値づくり (ユースケース案の構想)	11:00-13:00
14	グループ別発表会 (中編)	2 日目の途中経過の発表	13:15-13:45
15	グループワーク 4	自分たちが仮定したシステムイノベーションを実践するための展開ロードマップづくり (青写真の作成)	14:00-15:30
16	グループ別発表会 (後編)	2 日間のグループ成果の発表	15:45-16:15
17	総まとめ	2 日間の総まとめ、今後の講座予定	16:30-17:00

(2) SIC からの情報提供内容と講師陣

1	SIC からの情報提供 1	システムイノベーションとは？	人財育成協議会 主査 木村副センター長
2	SIC からの情報提供 2	システムで解決すべき 6 つのテーマの提供と概要説明	人財育成協議会 後藤委員
3	SIC からの情報提供 3	システム科学技術の概念体験会。 ギャラリー会場でプレゼンを聴講。テクノロジーのデモやハンズオンの機会と My システム思考の動機付け	政策研究大学院大学 産業技術大学院大学 慶應大学理工学部 総務省統計センター 青山学院大学

(3) 会場レイアウト ワークショップ形式のレイアウト構成



(出所：堀・加藤著「ワークショップ・デザイン」の図 2-2 4 を引用しながら説明文を加筆)

【IV】申し込み方法

■申し込みは、以下の参加者名等をメールで office@sysic.org 宛てにお願いします。

参加者情報：氏名・所属・役職・連絡先 (Tel 及び e-Mail)

■申込期限 10月16日(水)

【V】運営 SIC 人財育成協議会事務局

木村主査、土屋委員、後藤委員、五味委員、内山委員、鈴木委員、寺野委員、中鉢委員、松尾委員 および SIC 事務局

連絡先 office@sysic.org

以上